



笑顔とパワー爆発 〇〇一中 運動会〇〇



泥だらけになりながらも、笑顔が溢れたステキな運動会でした。一中生徒の皆さん、お疲れさまでした。そして、素晴らしいパフォーマンスをありがとう。



もう走れん、助けてくれー



ふふ、俺たち仲良し



お見事！五段円塔

<<お知らせ>>

2013生涯学習推進月間

①第8回系崎コミセン祭り

開催日時：平成25年11月24日(日)

開催場所：系崎コミュニティセンター

②2013生涯学習フェスティバル

開催日時：平成25年10月26日(土)

～27日(日)

開催場所：中央公民館、リージョンプラザ他

その他、関連行事が市内各所で開催されます



第9回三原市民体育大会

とき：10月13日(日) 場所：三原運動公園

系崎木原チーム



目指せ！Bクラス優勝
絶大な応援をお願いします

道徳のコラム

心を磨く習慣

「心を磨く習慣」によって、その名を歴史に刻んだ人物がいます。江戸時代に活躍した儒学者、広瀬淡窓（一七八二～一八五六）です。

淡窓が大分県日田の地に開いた私塾「咸宜園」は、全国各地から門下生が集い、明治三十年の閉塾までに約五千人が学んだという、日本最大級の私塾です。各藩が設立した公立の学校とは異なる一民間人が個人的に興じた私塾が、なぜこれほどの門下生を集めたのでしょうか。その鍵は、「人としての正しい生き方の模範」を後ろ姿で示し、己の心と厳しく向き合い続ける淡窓の姿にありました。

咸宜園の入門者が増えれば増えるほど、淡窓はみずから深く省み、自分自身にさらなる修養を課したといえます。

それを象徴するのが「万善簿」と名づけられた善行実践の記録です。一日を振り返って、よいことをしていればその分だけの白丸を、また、悪いことをしていればその分だけの黒丸を帳面につけるというものです。そして月末には、白丸の数から黒丸の数を差し引いたものを純粋な善行の数として集計し、その累計が一万に達することをめざしました。

淡窓は「万全簿」を五十四歳からつけ始め、十二年七ヶ月をかけて、六十七歳でついに「一万善」を達成します。しかし淡窓はそれでよしとせず、次の万善をめざして記録を続け、生涯を終えるまで修養を積み続けたといえます。

その感化を受けた門人には、大村益次郎（幕末期の医師・西洋学者）や高野長英（江戸後期の蘭学者）などの英才が現れています。そして、彼らも自分の心を磨きながら、新しい時代の礎となっていたのです。

（ニューモラル五二九号より）